【樹木の部屋】

ライラック（モクセイ科ハシドイ属　Syringa vulgaris）

和名：ムラサキハシドイ：紫丁香花　　別名：リラ　　英名：Lilac

モクセイ目　落葉性・高木　　原産地：ヨーロッパ

花言葉：友情、青春の思い出、純潔、初恋、大切な友達

花の色：薄紫、白、桃

← 写真-１　ライラックの樹姿
撮影日：2013 年 07 月 10 日
撮影場所：ポント・レジーナ(スイス)にて
撮影者：M　さん

↓↘ 写真-２、３　ライラックの花と葉
撮影日：2013 年 07 月 10 日
撮影場所：ポント・レジーナ(スイス)にて
撮影者：M　さん

← 写真-４　ライラックの花
撮影日:2013 年 07 月 12 日
撮影場所：グアルダ村
(スイス)にて
撮影者：M　さん

ポント・レジーナ(スイス)のホテルの窓から景色を眺めて・・・。ふと、窓下に目を移すと咲いていました。そして、スイス南部のグアルダ村散策中にも・・。

ライラック＝札幌と連想されるように、北国の代表する花。札幌の木にもなっています。北国の花といって

も、最近はご近所でも見られるようです。
　写真 1～3 はポント・レジーナのホテル、写真 4 はグアルダ村を散策中に見かけました。
　初夏、うす紫色の花と、とても高貴な香りを街並みに与えてくれるライラック。ヨーロッパ東部の山野に自生しているそうですが、日本へは明治 23 年に米国人宣教師 サラ・クララ・スミス女史が、生まれ故郷のアメリカから持ち込んだ 1 本が、始めとされています。ヨーロッパはもちろん、北アメリカでもとても人気で、非常にポピュラーな庭木として親しまれているそうです。北海道ではライラックが咲く頃に寒さが戻ってくると、「リラ冷え」と呼ぶほど生活と関わりが深い花木なのです。ちなみに、リラとはフランス語に由来。
　高温に弱く暑さや乾燥で葉が傷んで株が弱り、花付きが極端に悪くなることが・・・。耐寒性は強いので、特に防寒は必要ありません。

　基本の剪定

　花の咲き終わった直後が剪定の適期。翌年咲く花芽は 7 月～8 月に枝の先端に出来上がります。このため、それ以降、無闇に剪定すると花芽ごと枝を切り落とすことになり、翌年の花数が減ります。剪定は枯れた枝や、伸びすぎた枝を切る程度にとどめます。過度な剪定は枝が枯込んだり、樹の生長する勢いが衰えることがあり、特に暖かい地方ではそのようなケースが多いようです。よくわからない場合は、花後に咲き終わった花穂をすぐ下の枝分かれしている位置で切り落とし、冬に枯れた枝があれば取り除くくらいでかまわないそうです。
　一般にイボタノキを台木にしてライラックの枝を接いだ接ぎ木苗が広く流通しているそうです。

　＜ちょっと一言＞

　場所の関係でコンパクトに収めたい場合は切り詰めてもかませんが、必ず枝分かれしている付け根で切るように。枝を中途半端に残すような剪定は、残った部分が枯れてしまうことがあるそうです。